

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	The Role of Carbon Capture & Storage in the Carbon Market 炭素市場において炭素固定・貯蓄が果たす役割
主催	IETA
日時	2005年12月2日
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Mr. Leo Meyer (IPCC)</li> <li>- Mr. Wolfgang Heidug (Shell International E&amp;P)</li> <li>- Ms. Wendy Poulton (Eskom)</li> <li>- Mr. Frede Cappelen (Statoil)</li> <li>- Mr. Paul Zakkour (ERM)</li> <li>- Ms. Susanne Haefeli (DNV)</li> <li>- Mr. Paul Curnow (Baker &amp; McKenzie)</li> </ul>
目的	炭素隔離・貯蓄（CCS）の技術、及びそれらが CDM・JI・ETS でどのように扱われるのか、などを方法論や検証を含めて紹介。
発表の概要	<p>【Leo Meyer】CCS に関する IPCC 特別報告書の内容について 隔離・貯蓄地の場所として、地下貯蓄、海中貯蓄、無機炭酸塩化があり、後者 2 つの技術はまだ研究段階である。</p> <p>経済的ポテンシャルは、（450-750ppm で安定した場合）2100 年までに CO2 換算で 220-2,200Gt の削減が見込まれ、15-55%の緩和対策となる。研究によると、CCS の役割は増大し、CO2 価格は 25-30US\$/tCO2 と想定されている。</p> <p>リーケージは、地下貯蓄の場合 100 年以上の安全性は 99%を超過するぐらいの可能性（その信頼度は 90-99%）で、1000 年以上でも 99%を超過する（その信頼度は 66-90%）位である。そのため、リスクは低いといえるだろう。</p> <p>【Wolfgang Heidug : Shell International E&amp;P】CCS に関する法的規制について 炭素貯蓄を念頭においている法律は存在しない。国際環境条約の下では、OSPAR 条約とロンドン条約が、CCS と関連するだろう。また、投棄後の賠償責任が私企業から政府に変わる場合があるか、長期モニタリングや検証を誰が行うのか、炭素貯蓄の長さなどはどの位か、など不明な点は多い。</p> <p>一般的に CCS に対する人々の意識は低いが、環境 NGO や EU 域内の人々は徐々に CCS 技術に対する懐疑性は低くなっている。</p> <p>私企業の視点では、CCS は CO2 を削減する中で費用対効果の高い方法として重要である。しかし、CCS が拡大するには、技術の市場が確立されるような環境政策や長期的投資を見越せるような効果的な政策の立案と実施が必要である。</p> <p>【Frede Cappelen : Statoil】CDM プロジェクトとしての CCS について CDM 理事会（EB）に CCS プロジェクトの方法論が提出されたが、EB はこの種のプロジェクトが CDM として適格であるかどうかを決定できなかったため、COP/MOP にガイダンスを要請した。CCS 事業を CDM で実施するには、永久性の問題、植林との類似性、プロジェクトのバウンダリー、リーケージの対処、という問題を解決する必要がある。</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>CCS 事業に関して EB が考慮する必要がある点として、CCS を実施する地質及び責任の問題がある。前者は、CO<sub>2</sub> の貯蓄場の質、大気中に放出され得る漏出のリスク、リスクの緩和、プロジェクトの廃棄要求などがある。後者は、プロジェクトが廃棄された場合のリーケージの責任の所在(プロジェクト参加者かもしくはホスト国)という問題がある。</p> <p>CCS の方法論においては、ベースライン部分に比べてモニタリング部分の方が課題は多い。普通プロジェクトでは、モニタリングはプロジェクトのプロジェクト期間で実施するが、永久性を考えるとプロジェクト活動終了後も貯蓄場や地質の状態を評価しながら長期的なモニタリングが必要だ。これらを含んだモニタリング計画を、『貯蓄パフォーマンスアセスメント』として PDD に添付することも解決策のひとつとなるだろう。</p> <p>【Paul Zakkour : ERM】 CCS と ETS について CCS 最大の問題は、貯蓄場からの炭素漏出である。解決策として、削減量のディスカウント、デフォルト値の決定、一時的クレジットとしての扱い、などが考えられ得る。</p> <p>CCS を EU ETS に組み込むことにより、長期的な CCS への投資が可能になるであろうし、貯蓄するサイトにライセンスを与えることにより漏出を防止することが可能であろう。課題は、貯蓄サイトからの漏出のモニタリング、探知、数量化である。</p> <p>【Susanne Haefeli : DNV】 プロジェクトの検証について 現在の CCS の検証の障壁として、 エネルギーと環境政策、 アカウンティングがあげられる。 は、長期的な規制の枠組みが必要であるため、国際的に承認された CCS の検証システムが必要であり、プロジェクトの各段階においてガイドラインとスタンダードを作成する必要がある。 では、長期のモニタリングと検証が必要であり、CDM は CCS のよいプラットフォームであると考えられる。</p> <p>【Paul Curnow : Baker &amp; McKenzie】 法規制について CCS プロジェクトには 所有権の問題、 カーボンクレジットの発生とその所有の問題、 取引とアカウンティングの互換性の問題、 永久性と長期的な責任の問題、 などがある。</p> <p>、 に関して、発行して取引されるクレジットには、CO<sub>2</sub> を貯蓄するサイト地の利権、サイト地の地下の利権(貯蓄地) 地下に注入され貯蓄された CO<sub>2</sub> の利権という、様々な所有が考えられる。</p> <p>- <u>Poulton (Eskom)</u>は、将来途上国での化石燃料使用による CO<sub>2</sub> 排出が増大することから CCS への期待は高い一方で、分離にかかる費用とエネルギーについて留意することを指摘した。</p>
資料	<p><a href="http://www.ieta.org/ieta/www/pages/index.php?IdSitePage=993">http://www.ieta.org/ieta/www/pages/index.php?IdSitePage=993</a></p>

文責：錦 真理 (GEC)